

平成 30 年度 草津市文化振興審議会

重点プロジェクト検討部会（第 2 回）会議録

▼日時：

平成 30 年 10 月 12 日(金)10：00～12：00

▼場所：

草津市役所 6 階 教育委員会室

▼出席委員：

木下委員、我孫子委員、澤委員、津屋委員、綾委員、石田委員

▼欠席委員：

田端委員

▼事務局：

堀田副部長、相井課長、山本課長補佐、松岡主査、永井主任

▼傍聴者：

0 名

1. 開会

▼副部長挨拶

2. オープンワークショップの開催結果について

【A 委員】

重点プロジェクトでは大きく 3 つの事をこれから検討していく。今年度は 13 万人の文化プロジェクトについて審議し、来年度以降は残りの 2 つを検討する。今年度は 13 万人の文化プロジェクトの位置づけをしっかりと決めたい。事務局とも相談した結果、大きく 3 つの案をプロジェクトとしてできないかと思う。

1. 芸術に触れる機会がない人たちに、街の中で体験をする機会を増やす。
2. 文化施設に出向くことがない人たちが、文化施設の出前などで体験・鑑賞できないか。
3. ホールに来ることができない人たちの、ハードルを低くできないか。入場料を減らしたり、じっと座っているのが難しい人が声を出してもいいプログラムができないか。

以上、大きく 3 つの案が出てきた。

ワークショップで市民の方々からさまざまな意見を出してもらった。その時の意見を吸

い上げてまとめた資料を本日配布している。この形でのワーキングはこれが最後で、来年の全体会で最終をまとめる。来年は実験をして、実際に展開するのは再来年になる。小さい意見やおおまかな意見でもいいので意見を出してほしい。

3. 重点プロジェクトの検討

1. プレミアムコンサート

【B委員】

木下先生と守山の文化施策に8年関わっている。プロジェクトに共通して一番抜けているのが、運営する側の記載がないこと。誰がどうやって運営していくのか、主体や組織はどうするか。これが一番大事で、それがなければ運営、企画、発信できないと思う。守山では、それをどうするかを行政と一緒に議論してきた。そのためにはその街の特色が一番大切。守山は自治会加入率97%で自治会活動が盛んで、自治会と連携すれば情報が行き渡る。また、商工会などが中心となりお祭りなどをやっており、これも大事である。文化協会なども協力している。課題は、守山や草津は新住民が多く、若い世代が文化に触れる機会が少ないこと。住みよい街とは、子どもを中心にするのが大切であるとのことで、子育て世代、20代、30代あたりにどう参加してもらえるかを検討した。教育と文化の関わりについて、自治会、商工会など街のキーパーソンが集まり、どこに向けて、みんなで何ができるか、議論を進めていった。文化ホール、文化施策のプロ、県など多方面で協働連携も大切で、これを機に、びわ湖ホールと守山市民ホールの連携が進んだ。

草津が進めていく上で大切に思うこと。1つ目は、県や専門家と協働しながらも、真ん中にいるのは地域である。運営をする組織づくりを丁寧に進める事が大切で、文化ホールにはまずは劇場としての役割がある。文化ホールで文化政策を担えるかは、指定管理の中に組み込まれているかによる。主体と連携先との議論を丁寧にし、プロジェクト実施後の振り返りが大切。アンケートを取り分析することで、表面上見えない課題が見えてくる。抜けている部分は、どう運営していくか、振り返りで出てきたことを次にどう繋げていくか、丁寧にやると気付くことも多く面白い。意識が変わっていくことで、文化政策の意味がある。

2つ目は、草津らしさ。今年の6月に、障害者による文化芸術活動の推進に関する法律が施行された。障害者のためのアート支援が法的にもとりあげられている。これは目玉のプロジェクトになると思う。これを丁寧に形にしていくことで、草津の個性になるのではと思う。

【A委員】

全体的な意見をいただいた。項目として、誰がやるのか、運営体制、運営組織をいれた方がいい。行政として、施設との連携、中間支援組織のようなものを作ってもいいのではないか。そういう事を研究しながら、草津方式でやっていった方がいい。

【C委員】

半永久的に行政ができることではない。決まったことをやってといわれても、受け入れ

にくい。運営体制を作れるようなキーパーソンを集められると良い。規模は大きくなくても、路上ライブをやっている人と違う感じを出せればいい。ちょっとしたステージや屋台を出し、立ち止まってもらうきっかけ作りが大切。音楽だけでなく、食べ物や飲み物など、規模は小さくても特別な空間に思える演出があれば行きたくなる。朝からステージが置いてあったら、帰りに立ち止まるかもしれない。

【A委員】

展示学として面白い。いわき市では、トラックでの移動水族館がパッケージ化してある。設置すると時間もかかるので、これは良いのでは。演出方法が大事。

【D委員】

昔は、京都にある現在のロームシアターへ行っていたが最近はだんだん遠のいている。びわ湖ホールで、出演する男性合唱団が最後に来場者と歌うコーナーがあり、一緒に宇宙戦艦ヤマトを歌って、盛り上がった。高齢者、幼児対象のものはどうか。幼稚園で、地域にまつわる民話や紙芝居などをすると子どもが興味を持っていた。有名なアーティストも良いが、地域を知り、好きになってもらえるものが良い。

【E委員】

劇場としてノウハウはあるが、情報発信が課題。劇場が全て企画するとなると大変なので、地域のキーパーソンへ、劇場のノウハウを持って行けたら良いと思っている。

【A委員】

京都の学生で、びわ湖ホールを知っている者が少ないと感じる。

【F委員】

興味の無い人にどうすれば興味を持ってもらえるか。興味を持ってもらえるコンテンツを選ぶことが重要。

【A委員】

興味の無い人に興味を持ってもらうのは難しい。押しつけになってしまい逆効果になる。

2. おでかけシアター

【B委員】

県の予算で、文化施設と共に、不登校や障害のある子どもたちとアートプログラム支援を行っており、若手芸術家の育成も同時進行している。全て手作りのプログラムであることが大前提。障害のあり方は多様で、専門家の支援が必要。近代美術館や陶芸の森、専門機関と連携すると、そのノウハウを活用できる。支援できるアーティストを持っているのは強み。ただ、草津らしさをどう出していくかは課題。

【E委員】

先日、クレアホールでそのような事業があった（「みつくすじゃむ音楽会」）。本当にそのとおりで、専門の方々から学ぶことができた。

【A委員】

経験に基づく、具体的な提案だった。専門機関との連携は大事。まずは対象を絞って、少しずつやっていくのが良い。

【C委員】

子どもが小さい時は、そういうところにはいけなかった。障害者への配慮は、小さい子への配慮に似ていると思った。最近、学校では同じクラスになかなか障害者がいない。そういう垣根が取れて、障害者の子どもも一緒にできたらいいなと思った。

【B委員】

障害者の人たちとのボーダレスは大事。スポーツなどではインクルーシブはあるが、アートはまだだと感じる。これをやると先進的になれるのでは。

【D委員】

最近の音楽はテンポが早い。高齢者の方もついていける、昔なじみのゆっくりした曲がいい。

【E委員】

先ほどのみつくすじゃむ音楽会の話に戻るが、普段と劇場の使い方が全然違った。来られた方々は慣れているので、搬入などでもスムーズだった。

【F委員】

施設などでやっているお祭りなどのイベントなどに参加させてもらい、実験的にやってみたらどうか。小規模で関われる場所を作れたら良いのでは。障害のある子は、他の子が恥ずかしがっていても踊ったりできる。

【A委員】

既存の事業とコラボしたり、研究・発展させることが必要。

3. リラックスド・パフォーマンス

【B委員】

対象者として、障害者・生活困窮者・子育て世代・高齢者と横並びに表記されているが、冒頭に「障害等を理由に…」とあり、読み取りが難しい。対象者が広いのか狭いのかわかりにくいので、整理する必要がある。既存の事業を特別な方達向けにし、補助金も出します、となったら深く議論する必要はない。既にあるものと連携しつつ、団体に自主的にやってもらおう。例えば、クレアホールなど。

【E委員】

ミュージカルにダウン症のお子さんが参加している事例はある。子どもによって課題は異なる。参加者が情報を出してくれると、こちらも情報キャッチでき、いろいろと学べる。

【A委員】

対象者を絞るなど、表現は丁寧にする必要がある。1枚に詰め込みすぎているところはある。連携する仕組みづくりや、新しい組織の考え方などを入れては。

【C委員】

障害者の方たちと一緒にできるような劇場があるのは、草津にとって強みになる。障害者の方をサポートする人を育成することも必要。

【A委員】

育成プログラムにお金をかけるのはあまりないので、良いのではないか。専門家を投入するか、資金をサポートする。

【D委員】

障害者はサポートがつくとして、高齢者はいつか車で行けなくなる時がくる。移動手段を確保することを考えてほしい。新しく来てもらおうと思うと、送迎するくらいでも良い。

【A委員】

交通の便が悪いのであれば、通常の利用者とは異なる配慮が必要。

【E委員】

クレアホールで松竹の新歌劇を開催した時に、平日の夜、交通手段がなく行けずに残念だという声が多かった。高齢者対象にするなら夜はできないという意識は持っている。

【F委員】

例えばクレアホールだと、トイレ1つにしても階段がある。改善は難しいか。ホール内でも移動しにくいので、イベントをする側の時は、導線をすごく考える。

【事務局】

大規模な改修は難しい。それに近付ける範囲で改修はやっていく。

【F委員】

アミカホールも階段は厳しい。広さがちょうどいいのでその点は使い勝手が良いが、階段しかないので、高齢の方が参加するとなると大変。議論してもらえれば。

【事務局】

改修は随時実施しており、バリアフリーなどについても検討してきた経緯はある。

【F委員】

これからも継続して施設の改修の議論をお願いしたい。

【A委員】

今ある課題の中で、まずは手すり1つなど小規模改修からで良いので、見直して行ってほしい。将来的に、草津としての事業をする時に理想的なホールとは何か、草津らしさを含めて議論して行ってほしい。

4. まとめ

【B委員】

草津の文化力を上げるには、市民参加、芸術、支援の3つを押し上げていく必要があると思う。ターゲットを広げすぎるのは良くないのでは。楽しんで参加し、支援する人が増えていくことが大切。どうすれば人が育つかという議論ができて良かった。プロジェクトを4月から行うのに、行政の職員が直前で総替わりということもあるので、行政だけでは難しい。また、広報の方法としては、口コミが一番情報が伝わりやすい。草津には熱心な方がたくさんいる。

【A委員】

4月になって引き継ぎがあまりなされておらず、再度説明するケースがあるのが問題。そうすると熱が冷めることがあるが、仕方ない。広げすぎずに、わかりやすい資料を作っていく必要がある。この中の重点をどう考えていくかと、もう一度事務局の中でも無理のない範囲で検討する必要がある。また、障害のある方への表現については、考慮が必要。そして、発信者、支援者、運営体制の話が抜けている。これから計画を見直す時に、それぞれの事業に合った丁寧な体制はどうあるべきなのか。それを担う人達ともう一度検討していく必要がある。

【B委員】

予算との兼ね合いも必要では。

【A委員】

来年もやって欲しいと言う声があると、事業はどんどん広がっていく。広げすぎると苦しくなるので気をつけてほしい。活動が継続的になっていくと、草津の文化として定着すると思う。来年は本格実施ではなくモデルケースの研究として、本日の資料にあったプログラム3つのうち、1つか2つでも取り組むことができればと思う。

5. 閉会
